三重県立美術館

PRESS RELEASE 2023.12

藤島武二没後 80 年　鹿子木孟郎生誕 150 年

洋画の青春 ―明治期・三重の若き画家たち

①鹿子木孟郎《津の停車場（春子）》 1898 年　三重県立美術館蔵

2024 年 1 月 27 日［土］から 4 月 14 日［日］まで

三重県立美術館

三重県立美術館

PRESS RELEASE 2023.12

②赤松麟作《夜汽車》 1901 年　東京藝術大学蔵

―― 三重にはかつて、近代洋画の〈停車場〉があった――

日本で油彩画が普及し始めた頃、のちに近代美術史に名を遺す藤島武二、鹿子木孟郎、赤松麟作らが図画教師として三重に赴任し、それぞれの影響や足跡をこの地に残しました。彼らが著名な画家として世間に知られるようになるのは後年のことで、三重では二十代のひとときを過ごしたにすぎませんが、この地で未来を思い描き、大きく羽ばたいていく原動力を培ったのです。三重という〈停車場〉から彼らは旅立ち、藤島は東京で、鹿子木は京都で、赤松は大阪でそれぞれ洋画家として活躍し、各地で後進を育てて教育者としても活躍しました。

また、彼らが画家として過ごした青年時代は、油彩画が「洋画」と呼ばれながら日本の美術として根づいていく時期にそのまま重なり合います。明治 20 年代から 30 年代は、まさに「洋画の青春」と呼ぶにふさわしく、活力に満ちた作品が次々と生み出されました。

1982（昭和 57）年に開館した三重県立美術館は、洋画と呼ばれる近代日本の油彩画をコレクションの収集方針のひとつに掲げて収集・調査研究活動を行い、また開館以来 40 年以上にわたり洋画や洋画家に焦点をあてた展覧会を数多く開催してきました。本展覧会では、当館のコレクションの中でも重要な位置を占める洋画をテーマに据え、三重にゆかりのある洋画家たちの画業を振り返るとともに、当時の三重の美術状況や美術教育についてあわせて紹介します。

見どころ①
洋画はどうやって始まった？
明治初期の貴重な教育資料

本展の導入部では、まず、明治初期の油彩画（洋画）教育の一端を知ることのできる教育資料を紹介します。イタリアから招かれ工部美術学校で講師を務めたアントニオ・フォンタネージ（1818-1882）がもたらしたモデル人形や、美術学校や画塾で学んだ画家たちによるデッサンなど、美術教育の現場で用いられ、制作された貴重な資料が展示されます。

見どころ②
切磋琢磨—画塾で学んだ若き洋画家たち

明治初期から中期にかけては、東京を中心に各地に洋画を学ぶ画塾が開設されました。工部美術学校で本格的な絵画技術を学んだ者や、ヨーロッパに留学し本場で西洋絵画の技術や表現を学んだ者たちが、画塾の指導者として後進を育てました。ここで学び技術を身につけた画家たちは、第二世代の洋画家として明治中期以降活躍の幅を広げていきます。仲間同士、励まし競い合って洋画を習得していく様相を紹介します。

見どころ③
洋画が三重にやってきた！

三重県では明治 10 年代前後から、師範学校や中学校が創立され、学校教育の中で図画の教育も始まりました。1893（明治 26）年には、藤島武二が三重県尋常中学校の助教諭として津に赴任します。藤島以降、鹿子木孟郎や赤松麟作といった、のちに近代美術史上に名を遺す画家たちが次々と図画教師として三重に赴任し、若き日々を津で過ごしました。このほかにも、大八木一郎（おおやぎ いちろう）、福原霞外（ふくはらかがい）など、これまであまり知られてこなかった画家たちも三重に教員として赴任し、活動しました。三重時代を彩る彼らの作品や、三重の人々との交遊を示す資料など、近年の調査の成果もふまえて紹介します。

見どころ④
どぶろく VS ワイン、ふたつの潮流

1893（明治 26）年にフランスから帰国した黒田清輝は、明るく自由な画風により、若い画家たちからの支持を集めます。また、黒田は東京美術学校に新設される西洋画科の若きリーダーとして力をふるい、黒田のもとに集まった画家たちにより、白馬会（はくばかい）という新しい美術グループも生まれました。ちなみに、白馬会の名称は、彼らが親しんだ濁酒（どぶろく）の俗称「しろうま」にちなんでつけられたといいます。白馬会は美術界の一大勢力として、明治後半期に活躍しました。

一方、旧来のグループに残った画家たちも努力を惜しまず、ヨーロッパに学んで帰国した者も多くいました。その一人、鹿子木孟郎はフランスのアカデミー画家に学び、フランス風の徹底した絵画観を習得します。それは、いわば、ワインのように歴史や技術に裏付けられたものでした。やがて白馬会の画家たちと、鹿子木らが目指す絵画は異なる方向へとそれぞれ進みます。明治 30 年代という時代の中でそのふたつの潮流を追い、照らし合わせて展示します。

③藤島武二《造花》 1901 年
東京藝術大学蔵

見どころ⑤
東京、京都、大阪
―次なる場所への展開

ともに三重県で図画教員を務めた経験をもつ藤島武二、鹿子木孟郎、赤松麟作は、三重離任後、東京、京都、大阪と拠点を移し、それぞれの場所で後進を育てる教育者としても活躍しました。本展では、彼ら三人に学んだ洋画家たちとその作品を、三重県立美術館が所蔵する豊富な近代洋画コレクションの中から選び展示し、その後の展開として紹介します。

■関連プログラム

＊手話通訳・要約筆記、その他支援をご希望の方は、2 週間前までにご相談ください。

▶記念講演会「《津の停車場（春子）》から始まった ―明治洋画研究の「青春」―」

講師　児島薫（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）
日時　3 月 3 日［日］午後 2 時から午後 3 時 30 分まで
会場　三重県立美術館地下 1 階講堂
定員　150 名　参加費無料、当日先着順
（直接講堂にお越しください。午後 1 時 30 分に開場します。）

▶ウォーキング「春分の日・津のまち歩き」

本展で紹介する洋画家たちゆかりの場所を歩いて巡ります。
案内人　原 舞子（当館学芸員）
日時　3 月 20 日［水・祝］午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで　＊少雨決行
集合　近鉄「津新町」駅／　解散　津偕楽公園周辺
定員　15 名　　参加費無料、事前申込制（希望者多数の場合は抽選します。）
＊詳細は 1 月中旬にウェブサイトに掲載します。
　ウェブ申込フォームよりお申込みください（3 月 4 日［月］締め切り）。

▶担当学芸員によるギャラリートーク

日時　2 月 11 日［日・祝］、3 月 16 日［土］午後 2 時から午後 2 時 30 分まで
会場　三重県立美術館企画展示室
＊展示室に入るため、洋画の青春展観覧券が必要です。

■展覧会概要

藤島武二没後 80 年　鹿子木孟郎生誕 150 年

洋画の青春―明治期・三重の若き画家たち

会期　　：2024 年 1 月 27 日［土］から 4 月 14 日［日］まで
開館時間：午前 9 時 30 分－午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
休館日　：毎週月曜日（2 月 12 日は開館）、2 月 13 日［火］

観覧料　：一般　1,000（800）円　学生　800（600）円　高校生以下無料

・（　）内は前売および 20 名以上の団体割引料金
・この料金で 2 階常設展示室「美術館のコレクション」、柳原義達記念館もご覧いただけます。
・生徒、学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。
・障害者手帳等（アプリ含む）をお持ちの方および付き添いの方 1 名は観覧無料。
・教育活動の一環として県内学校（小・中・高・特支）および相当施設が来館する場合、
　引率者も観覧無料（要申請）。
・毎月第 3 日曜の「家庭の日」（2 月 18 日、3 月 17 日）は団体割引料金でご覧いただけます。
・主な前売券販売所　チケットぴあ、ファミリーマート、セブン - イレブンなど

主　催　：三重県立美術館　朝日新聞社
助　成　：公益財団法人岡田文化財団　公益財団法人三重県立美術館協力会
協　力　：三重県立津高等学校　三重県立津高等学校同窓会　学校法人高田学苑

■広報文

案内文作成などにご利用ください。

100 文字以内（97 文字）
明治 20 年代から 30 年代にかけて、藤島武二、鹿子木孟郎、赤松麟作ら洋画家たちが図画教師として三重に赴任し、それぞれの影響を残した。本展では、近代日本の油彩画の名品の他、当時の貴重な資料類も紹介する。

50 文字以内（49 文字）
明治 20 ～ 30 年代の日本の油彩画＝洋画に焦点をあて、三重ゆかりの洋画家たちや当時の美術状況を紹介する。

■広報用画像の提供について

本プレスリリース掲載の画像①～⑤を広報用に提供します。
ご希望の場合は、注意事項をお読みの上、下記連絡先に希望の画像番号をお知らせください。

注意事項

・本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後はデータの破棄をお願いいたします。
・画像については指定の作品情報を画像と一緒に掲載してください。
・画像の作品部分への文字のせ、トリミングはご遠慮ください。
・掲載物を 1 部、または紙面データを美術館にお送りください。
・ウェブ上に掲載する場合は、コピーガード（右クリック不可）をかけてください。コピーガード対応ができない場合には、72dpi 以下もしくは 400×400pixel の解像度でご掲載ください。
・画像データの広報目的以外の使用はできません。

④吉澤儀造《瑞巌寺（松阪市岩内）》 1901 年頃
小杉放菴記念日光美術館蔵

⑤福原霞外《春日之森》
1899 年　うらわ美術館蔵

■お問い合わせ
三重県立美術館　学芸普及課　原（企画）、髙曽、内藤（広報）
TEL：059-227-2100（代表）　FAX：059-223-0570
EMAIL：bijutsu2@pref.mie.lg.jp　住所：〒514-0007　三重県津市大谷町 11